

Kaleidoscope

Vol.4

“エンフィールド”



オジンくさいが、これがご時世というものだろう。ある意味では、アクションの時代なのかもしれない。べつに文句を言う気はない。なにしろエア・ソフト・ガンもラジコンも持っているんだから、ボクは。ただ、ちょっとさみしいだけのことサ。

くろがね ゆう

イラスト：明日 蘭

在庫がない!?

ついに買ってしまった。いや、ようやくという感じもする。何をかって? マルシンのエンフィールドをだ。

いろんな店を探し回ったけど、発売開始からまだ数ヶ月しかたっていないというのに、ほとんどのところで売り切れを宣告された。売れているのだろうが、生産数も少ないような話を数人の店主の方々からうかがった。ホント?

だいたいどこへ行っても、エア・ソフト・ガンはドーンと飾られているのに、モデルガンは隅に追いやられていることが多い。

そういえば、プラモもひところの華やかさが少々感じられない気がする。売り場でラジコンが幅を利かせているのは、ボクの家の近所だけのことだろうか。

エンフィールドとウェブリーがパーツ共用だった時代

昔のことで記憶が白いモヤのかなたにかすんでハッキリしない。だから、どういう理由で中学生のころ、ナカタのエンフィールドを買ったのか思い出せない。友達から中古で買ったのか、おもちゃ屋さんから新品で買ったのかさえ、さだかではないのだ。

ただ、それはボクに、金属製・黒・ゴツツイ・メカっぽいといった印象を強烈に残した。そして気がつくと、ボクはエンフィールドの虜だった。

かすかな記憶から、間違いを恐れずにその特徴を書き出してみると……。

銃口にはやや大げさなライフレリングがあった。

銃口から10mmほどのところから穴が左右2本に分かれ、再びフォーシング・コーン付近で9mm口径にもどるといった

「豚っ鼻」で、煙の
抜けが異常に
悪かった。

リコイル・ブ
レートが亜鉛合金
製のため、すぐ折
れた。だから
ボクはス
チールで
自作しよう
とっていたほ
どだ。ただ、ネジを
切るタップを持っ
ていなかったの
で、実現不可能だったの
だ。

分解・組み立てが
難しかった。

エジェクトがう
まくいかなか
ったことが多か
った。

発火性能に優れ、轟音を発した。よく、
耳がキーンとしたものだった。

操作方法が実銃に忠実だった。しかも
外観が非常にリアル。特に、手にピッタリ
くるグリップは最高のでき。実銃の黒色
ベークライトの雰囲気があった。それに
グリップ・スクリュウ・ナットが真ちゅう
製で、10円玉みたいに大きかったのが、今
でも忘れられないくらい魅力的だった。

当時、まったく気にならなかったの
だが、バレルとフレーム（当然グリップも）
以外は、ウェブリーとエンフィールドで
はパーツが共用だった。

実はこれ、真っ赤なウソなのだ。確かに
2挺は形が似ているが、ウェブリーはル

ケンアサヒの
ベストセラーバレルの映画化

「針の眼」で
ケイトネリガンがラストで

エンフィールドを使い、印象的でした



ガー社のセキュリティ・シックス
のような形式の
フレームである。
エンフィールドの
ようなサイ
ド・プレート
はない。もち
ろんパーツに
も互換性は
ないの
だ。

しかし
当時、これ
を同じもの
として扱うく
らいは当たり前
のこと。誰もそ
まで詳しい知識も
持ちあわせていな
かった。

とにかく、ボクは
エンフィールドに夢
中だった。いまだに
わからないのは、なぜそこまで惚れ込ん
だエンフィールドを手放してしまったの
かということだ。

再会

さて、ようやく（1986年）5月、エン
フィールドに再会することができた。10
数年ぶりということになる。感激だ。

そこで、このマルシン製のニュー・エン
フィールドの印象も記しておこう。

まず、グリップが変わっていたのは、ボ
クにとって10円ナットの印象が強いただけ
に、残念だった。ニュー・エンフィールド
のグリップは、Mark Iと呼ばれるウォール

ナット製の初期型をモデル・アップしている。1942年以降のMark IIの方が良かったのに.....好みの問題だけど。

全体の印象は、小振りできゃしゃ。ブツなイメージがしなくなった。これが正しいのかもしれないが、本当はどっちなのか。

パーツ構成がほぼ実銃と同じになったおかげで、分解・組み立てが楽になった。ハンマー・ストップというS&Wのハンマー・ブロックに相当するパーツもちゃんと再現され(Mark I**から省略されるけど) 1人前になったという感じだ。

外観は大変よくできているし、プルーフ・マークも正確に再現されてマニア泣かせだ。ちょっと口径表示の部分に疑問もあるが.....。

ハンマー・ノーズは別部品。ちゃんとフレームに当たって水平にプライマーをたたく。数年前なら考えられないことだ。しかし、このノーズの遊びは多すぎると思う。コックしたときノーズが下がって見苦しいほどだ。

一番残念だったのは、シリンダー・リテイニング・カムが作動していないこと。実銃は、バレルを折ったときにシリンダーが回転しないように締めつけるほか、カム・レバーを取るだけで簡単にシリンダーを外せるようになっているのだ。

シリンダーを外すのに、いちいちラッチを外すのは良くない。ヒンジ・ピンも抜く必要はない。カムの内側とフレームのヒンジ部を削ってやれば、実銃どおりに分解できるようになる。やってみてはいいが。

あと、シリンダーの回転が少々悪い。これはバレルとシリンダー・アクセルの間

にガタがあるためで、接着してしまえば解決する。さらにラチェットに注油すれば、完璧と言っていいだろう。

ハイ・コスト・パフォーマンス

全体として、エンフィールドの完成度は非常に高い。ボクはキットを買ったが、完成品でも価格と製品内容のバランス、コスト・パフォーマンスは優れている。

考えてみると、ボクのモデルガン・コレクションが増えたのは、実に2年ぶりのこと。久しぶりに買いたいと思わせる商品だった。

懐かしさがあったからと言っても、もし、これが1~2万円もしたら絶対には買わなかつたろう。ボクの正常時(?)におけるモデルガンの購入予算は、5,000円が目安なのだ。時として、ショードー買いに走り、給料の3カ月分を使って自己嫌悪に陥ることもあるが、それはあくまでもAV機器に関してのみ。やっぱりモデルガンは、ハンドガンなら1万円、長物でも2万円くらいであって欲しい。これからも、ずっと。

